



祭りの道具

青谷上寺地遺跡からは祭りに関連する道具・^{さいぐ}祭具が多数出土しており、武器・船・鳥などの木製の^{かたしろ}形代や^{わざわ}災いを祓う祭具と考えられる^{ふんどうがた ど せいひん}分銅形土製品、人面を彫刻した石製品、^{うらな}占いに用いられた^{ぼっこつ}卜骨、楽器の琴、装飾性の高い土器や通常の土器より著しくサイズの小さい土器など様々です。こうした祭具を用いて行われる祭りは、^{ひみこ}邪馬台国の女王卑弥呼のような^{じゅじゅつしゃ}呪術者が取り仕切っていたものと思われませんが、こうした人物は派手なアクセサリー（髪飾り・首飾り・腕飾りなど）や特殊な装束（鳥人の装いなど）、^{じゅりよく いげん}呪力や威厳を示す持ち物（^{はきょう}破鏡や装飾性の高い^{とうけんそうぐ}刀剣装具など）を身に着け、自身が特別な存在であることを明確に示していたようです。なおアクセサリーには呪術的な性格が備わっているとされています。

青谷上寺地遺跡からは、^{どうほこ どうか どうたく}銅剣・銅矛・銅戈・銅鐸など弥生時代を代表する青銅製祭具の完形品は出土しておらず、今のところ当遺跡で青銅器を祭った直接の証拠は見つかっていません。一方で当遺跡から銅戈・銅鐸の小さな破片が出土していますが、本体の一部が破損して生じた破片なのか、青銅の素材として破片が入手されたものなのかは明らかではありません。なお銅剣を忠実に模倣した骨角製品（非実用品）が出土しており、青銅器を祭りの対象とする概念は、青谷上寺地遺跡にもたらされていたとみてよいでしょう。

様々な祭具からは、災いを回避して集落の存続を図ろうとする、青谷上寺地遺跡の弥生人の切実な願いが伝わってくるようです。



様々な形代（木製品）



分銅形土製品



司祭者の装い



祭りで奏でた組合せ式の琴



銅剣形骨角器（鯨骨製品）



卜骨（猪の肩甲骨）